

東南アジアの美術教育について

—社会的文脈からの観点—

福田 隆真

On the Art Education in South East Asia:
The view point from the social contexts

FUKUDA Takamasa
(Received August 3, 2016)

キーワード：東南アジア、美術教育、社会的文脈、グローバル化、伝統文化

はじめに

東南アジアの国々における美術教育は様々であり、経済発展、歴史や伝統文化、民族、宗主国などによる多様な要因によって異なっている。しかし、グローバル化している現在、情報技術の発展、デザインの普及などにより、国や民族を超えて行われている美術教育の内容と地域や国独自の内容とが見られる。美術教育の目的は、美術文化の理解、造形的表現力の育成、鑑賞力の育成、創造性の育成、情操の育成など、国際的にもほとんど共通の本質的内容を有している。一方、様々な国や地域ではその相違によって状況が異なる社会における美術教育が実施されている。美術教育の本質に様々な文脈から接近している状況と捉えられる。

本稿では東南アジアのシンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジアを対象として、美術教育の現状をその社会的文脈によって解説する(注1)。一部の国については教科書の紹介を行う。

1. 美術教育と国民文化

国民文化という言葉は日本の美術教育の分野では使わないが、「我が国の歴史や伝統」という言葉に通じるかもしれない。東南アジアの国のほとんどは多民族国家であり、同時に多文化社会となっている。戦後、民族の統合によって国を形成したことにより、多民族多文化国家となって発展している。そこで、国民文化の認識が美術教育においても重要な内容となっている。

シンガポールは、中国系、マレー系、インド系の3つの民族からなり、75%は華人と呼ばれる中国系である。2000年を境に、シンガポールは新しくシンガポリアンと呼ばれるシンガポール人を目指して文化の統合と創造を行っている。したがって美術教育においては現代美術を対象として視覚言語を用いながら、新たな美術文化の創造を行っている。同じ民族構成のマレーシアではシンガポールとは異なり、マレー半島に古くから居住していたマレー人の文化が基盤となり、その後、中国系、マレー系が移入したため、社会には3つの文化が存在しているが、美術教育においてはマレー系の文化が主となって伝統的な工芸の重視や近代のマレーシアの美術活動を紹介し、国民文化の形成を提案している(注2)。また、そうした文化理解のために西洋で系統化された視覚言語を美術教育に導入して理解の浸透を行っている。「マレーシアは一つ」というスローガンもその一つと思われる(注3)。

同じく、多様な文化を有するインドネシアも多様性の中の統一という標語のもとにインドネシアの国の輪郭を描いている。ヌサンタラというインドネシアの別称を用いて、ヌサンタラの美術の理解を進めている。また、近代の美術運動を含めることもあり、その場合はインドネシアの美術という表現もしている。いずれにしても250以上の民族を有する広大な国の国民文化の定義と内容を学校教育の美術で促進しようとしている

る。

カンボジアでは美術教育は現在のところ社会科の授業の中に含まれている。カンボジアは第二次世界大戦後、度重なる内戦を経て現在は社会が安定し、経済成長が順調に伸びている国である。アンコールワットの時代から独自の文化を擁し、現在も王政が続いている。教育制度と教育課程は1996年以降に整備され現在に至っている。美術教育は社会科の一部であり、しかも小学校4年から6年までに限られている。芸術としてとらえており、「視覚美術」「舞踊」「音楽」からなっている。

視覚美術の内容は「クメールの伝統的な描画、油彩画、染織、折り紙、コラージュを模写する」とか「紙粘土の技法でリサイクル用品を用いて立体を作り、クメールの伝統的な彫刻技法に基づいてパターンを描く」のようにクメール文化の理解を行っており、それらが国民文化の基盤となっている（注4）。

タイはアジア諸国の中で西洋の植民地にならなかった国である。仏教文化も豊かで、伝統的なタイの美術文化に西洋文化が影響され、さらに1945年以降はアセアン諸国の連携による近隣の文化の影響とその後のグローバル化による美術文化の多様化がなされてきた。西洋美術や現代美術の影響を受けながらも、伝統的な仏教美術を基盤とした表現もなされていて、国民文化の多様性が見られる。

ベトナムも歴史的に独自の文化を有しており、その後、フランスの植民地となったことにより、西洋美術の影響とラッカーによる絵画のようにベトナム独自の美術表現の開発がなされた。伝統的な美術文化は仏教美術と工芸が多く、中でも焼き物は技法も種類も多様である。さらにはフランスの影響による絵画の発展がみられる。それらを総合してベトナムの国民文化とされる（注5）。

東南アジアの諸国は、現在の国家となる以前の民族を重視した行政の集合体の統合によって戦後国家の形成がなされた。そこには民族と国家の相違があり、それを乗り越えて国としての発展を遂げてきた。そして東南アジアの多くの地域が西洋の植民地となり、その統治期間に西洋文化の影響を受けてきた。もともと民族の伝統文化を有していた中に、西洋美術が移入され、融合、統合、抵抗などのリアクションにより国としてのそれぞれの受け止め方が出現した。その後、経済的発展に伴いデザインの普及、映像の拡大など現代文明に関わる美術の内容が流布した。さらには社会的メッセージや独自の伝統や理念からの発想による現代美術が国を超えて伝播してきた。

このような文脈において、美術教育における美術文化の理解としては、当該国の国民文化としての美術の内容があげられる。それは、一つは伝統文化として美術であり、東南アジアの多くは民族の工芸である。陶芸、木工、金工、染織、宝飾品、建築といった生活に関わる美術である。そして次にあげられるのが、宗教美術である。絵画、遺跡、建築物、仏像などの文化遺産も含めた美術である。さらには、植民地化あるいは近代化による西洋美術の受容と融合によって創造された美術文化である。具体的には、近代西洋絵画による多様な表現が東南アジアに影響し、独自の絵画を生み出したものがそれに該当する。これら3つを含めて国民文化としての美術文化といえる。東南アジアの美術教育はこうした広義、狭義の国民文化の理解と促進に目的の一つがある。

2. 教科書教材

教科書は教育内容を示す基準となるものである。国としての美術教育は初等教育、中等教育及び専門教育において行われている。国民文化の理解と美術文化の発展の基礎となるのは初等、中等教育である。ここでは東南アジア諸国における教育課程の反映としての美術教育の教科書についてその内容を概観する。

シンガポールは1980年代に最初の美術教育の教科書を作成した。国定教科書でありその内容はシンガポールの多民族多文化社会の理解のための異文化理解教育を目的とすると同時に、シンガポールの美術文化の紹介が主であった。美術の基礎的な技術技法の習得も目的としていた。2000年以降はテーマによる多様な表現を解説し、視覚言語による造形方法と鑑賞を促していた。テーマとしては、伝統、民族、対象物、環境などの広く社会的な内容を示していた（注6）。現行の教科書においても視覚言語を基礎として、多様な表現を促しており、社会との繋がりを意識した現代美術も導入されている。国民文化を色濃く出すのではなく、創造的な人材養成のための多様な表現を促している。

視覚言語の重視という点ではマレーシアも同様であり、表現方法の基礎としても鑑賞のための観点の一つとしても視覚言語を用いている。視覚言語の起源はデザインのための方法であり、それは国や民族を超えた国際様式として発展をしたが、美術教育の方法として導入した際には国際様式としての内容に加えて、民族

や国が擁している美術文化、国民文化を基盤とした独自の視覚言語を追究してきた。マレーシアにおいても造形要素や造形原理の事例として国際様式の作品と同時にマレーシアの伝統的な文化の中からも事例をあげて解説している（注7）。

インドネシアにおいては前述のように領土領海が広大で250以上の民族を擁している多民族国家である。それゆえに、美術教育も総合的に扱われ、「芸術文化」という名称のもとに、美術、音楽、舞踊、演劇を統合した教科書となっている。国民文化の観点からみると伝統的に芸術を統合的に扱い、催事や行事において舞踊、音楽、美術が一体となった演出や表現を行ってきた。そしてそれらが生活の一部であった。パティックや陶芸のような伝統的な工芸品も生活の一部として重要な役割を果たしている。このような伝統的な国民の美術の中に近代以降の西洋美術が組み込まれ、現代に活躍する美術家の紹介もなされている。教科書は美術教育だけでなく芸術として総合的に捉え、インドネシア独自の文化を理解するように作成されている。

図1から5はインドネシアの中学校1学年の教科書の題材である。図1、2は音楽の分野で伝統的な楽器と西洋の楽器の両方が扱われている。図3は舞踊の題材である。図4はインドネシアの伝統的な木彫の教材である。工芸と木彫の両方の機能を有している。図5はインドネシアの伝統工芸で、模様に着目した教材である（注8）。

芸術として総合的に扱うという意味ではないが、ベトナムでは教科書は音楽と美術が一冊の教科書となっている。授業時間も別であるから合本した教科書といえる。教育方法は現段階では指導の強い模範や参考を例示してそれらを習得する方法をとっている。教育内容は伝統的な工芸、歴史的遺産、ベトナム美術史、西洋とベトナムの絵画、仏教美術、レタリングやポスターなどのデザインなど多様にわたり、日本の以前の教育内容の分野と類似している。

図6はベトナムの小学校5年の絵画の題材である。日常生活をクレヨンで表現している。図7は小学校4年の静物画である。モチーフとお手本のとおりに描く練習をしている。図8は鑑賞としてベトナムの絵画作品を取り上げている。伝統的な絵画から発想した作品を提示している。図9は風景画であるが、参考作品を提示して奥行きを学習を促している。造形原理を学ぶために身近な風景を取り上げている。図10は造形要素の色彩の学習である。そしてそれを利用したパターンと配色の題材である。こうしたグローバル化したデザインの題材が身近な作品例によって提示されている。図11は中学校1年の教材でパターンとデッサンのような基礎的な内容である。ベトナムは小学校5年制、中学校4年制なので実際は小学校6年生である。図12は中学校1年生の美術史である。伝統的な文化遺産や工芸を対象としている。図13は中学校1年生の色彩の題材である。基礎的な内容と応用的な内容を紹介している。図14は伝統的な絵画の題材である。ベトナム独自のモチーフと技法を紹介している。図15はレタリングの題材である。デザインの国際様式としての題材であり、ベトナム語が現在はアルファベット表記なので共通する内容となっている。図16はベトナムの中学校4年生の静物画の題材である。臨画による教育であるが、構図、配色の具体的プロセスを例示している。図17は工芸における装飾のデザインの題材である。伝統的な色や形を現代化している。図18は絵画の題材である。お祭りや行事をモチーフとしている。図19は民族美術の題材である。教育課程では美術の常識として、ベトナムや西洋の美術を知識理解する題材が含まれている。図20は美術史の題材である。グラフィックの分野として日本の浮世絵が紹介されている（注9）。

カンボジアは前述のように社会科に中で芸術教育が含まれている。4年生以上で芸術教育として扱われている。社会科としての分野は「道徳・公民」「歴史」「地理」「芸術教育」「企画・組織」となっている。芸術教育は美術、音楽、舞踊からなっているが、内容は少ない。近い将来、美術は独立した科目となるよう現在教育課程の作成が進められている。

図21はカンボジアの小学校5年のパターンの題材である。図22は小学校5年の音楽の題材で伝統的な楽器を取り上げている。図23は小学校6年の工作と工芸の題材である。身近な題材を簡単に取り扱えるように示している（注10）。

タイにおいて美術教育は教育課程では芸術領域として定められている。芸術として視覚芸術、音楽、舞台美術を含んでいる。例えば小学校6学年では、視覚的要素の有用性や、形、形状、光、影の理解をしたり、材料用具の理解、大きさ、バランスなどの造形原理の理解をしたりするように、定められている。美術の教科書としては絵画、彫刻、工作、色彩、デザインなどの教材がベトナムの美術と関連付けられて解説されている。鑑賞の教材では伝統的な建築、寺院、仏教美術などが取り上げられている。

図24はタイの小学校4年生の絵画の題材で色鉛筆での表現である。図25も同じく絵画で表現課程を詳しく

示している。図26は鑑賞の題材である。伝統的な工芸、遺跡、仏教美術を対象としている。図27は小学校6年生の色彩の題材である。色彩原理の学習である。図28は絵画の題材である。水彩絵の具による表現である。図29は工作で粘土を扱っている。彩色も施している。図30は小学校6年生のデザイン、構成の題材である。国際様式で国や地域を超えた題材の一つである（注11）。

以上のように東南アジアにおいても学校教育の美術教育は整備されてきている。中でもシンガポールは1980年代から美術の教科書が刊行されて、東南アジア諸国では最も進んでいた。それは小規模な都市国家であるから決定や実行が速いことと、海外からの協力が得やすいという利点によるものであった。他の東南アジア諸国では、タイを除いて西洋の植民地であったことから、前述の国民文化を意識する内容が多くを占めている。また、美術が西洋の純粋美術という考え方だけではなく、生活に関わる工芸を出発点としていることから、多様な民族の多様な伝統文化を美術教育の主要な内容としている。民族の伝統工芸、歴史的遺跡、宗教美術に加えて、近代美術やデザインの分野がある。

教科の取り扱い、芸術としての総合性を重視しながら、個別の美術教育を実施する方法が採られている。それは各国や地域の社会的事情に依拠するものであり、どの方法が最適ということではなく、社会的な文脈の上に成り立つものである。

3. 美術教育の文脈

東南アジア諸国の美術教育の概略を述べてきたが、学校教育での美術教育はそれぞれの国によって異なっている。これは当然のことであるが、美術教育の目的はほとんど変わらないのも事実である。各国の教育課程や教師へのインタビューでは、美術文化の理解、創造性の育成、情操の教育といった我が国と同じような本質的な内容が示されたり語られたりする。東南アジア諸国は20世紀前半まで西洋による植民地であった。したがってそれまでの民族の美術文化は主に日常生活を起源とする工芸や宗教美術が主となっていた。そこに西洋の美術文化が移入され、受容や融合が図られてきた。そして20世紀後半には近代国家として独立した。いずれも多民族国家となり、美術文化はますます多様性を持つようになった。加えて20世紀の後半からの経済発展によるデザインの流布により欧米でのデザインが影響を及ぼした。美術教育にも視覚言語による教育のようにバウハウスがアジア諸国にも影響を及ぼした。それらは美術教育のグローバル化を招いた。さらには現代美術の流布により国家を超えたメッセージの表現と伝統文化に基づいたアイデンティティーの表現が東南アジアでも出現してきた。美術教育を取り巻く社会的文脈は、民族の伝統文化、西洋文化の受容や融合、そしてデザインや現代美術によるグローバル社会とアイデンティティーの表現という三層または四層の文脈の上に成り立っているといえる。

おわりに

アジアの美術教育は日本も含めてグローバル化とアイデンティティーの状況に包まれているといえる。19世紀半ばに開国した日本は明治維新によって欧米の影響を受けてきた。明治以降の欧米の社会制度や文化、産業などが取り入れられ近代化することにより発展してきた。西洋による植民地化は避けられたが近代化のために西洋化も余儀なくされた。そしてそれはグローバル化の一つの道であった。しかし日本は江戸時代の鎖国により蒸留された日本独自の文化を有している。

東南アジア諸国は植民地化以前の伝統文化に加えて西洋文化が付加される結果となり、さらに20世紀後半の独立後にはグローバル化へと向かうことになった。文明としては近代化であり欧米化であった。そうした状況下で民族と国家のアイデンティティーを模索し、国民文化の形成を行ってきた。行政単位としての国と生活単位としての民族にねじれを持ちながらも文化の創造を行っている。そうした状況で美術教育もなされている。

グローバル化は国や民族が協力して発展するための手段と方法であり、アイデンティティーや伝統文化の形成、保持はお互いを尊重し共存するための重要な内容である。美術教育もそうした文脈の中でグローバル化した内容とアイデンティティーを認識する内容を追究していく必要がある。

注

- 1 すでに筆者は東南アジアの美術教育について次のような報告を行っている。
福田隆眞, 「アジアにおける視覚言語による美術教育の展開—シンガポール、マレーシアの事例—」, 山口大学大学院東アジア研究科博士論文, 2012.
- 福田隆眞他, 「ベトナムにおける中学校美術教育内容について」, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第35号, 2013.
- 福田隆眞他, 「ベトナムの近代絵画と美術教育」, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第39号, 2015.
- 福田隆眞他, 「インドネシアの中学校美術教育の教材について」, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第36号, 2013.
- 福田隆眞, 「インドネシアの近代美術と美術教育について」, 山口大学教育学部研究論叢第64巻第3部, 2014.
- 福田隆眞他, 「インドネシアの小学校美術教育について」, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第40号, 2015.
- 福田隆眞, 「インドネシアの高等学校における美術教育」, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第41号, 2016.
- 2 マレーシアの政策の一つであるブミプトラに関連していると考えられる。
- 3 マレーシアでの国家的スローガンとして Satu Malaysia (一つのマレーシア) が進められている。
- 4 KINVDOM OF CANBODIA, NATIONAL RELIGION KING, MINISTRY OF EDUCATION, YOUTH AND SPORT, BASIC EDUCATION CURRICULUM, SCIENCE & SOCIAL STUDIES
- 5 前掲「ベトナムにおける中学校美術教育内容について」「ベトナムの近代絵画と美術教育」参照。
- 6 前掲「アジアにおける視覚言語による美術教育の展開—シンガポール、マレーシアの事例—」参照。
- 7 前掲「アジアにおける視覚言語による美術教育の展開—シンガポール、マレーシアの事例—」参照。
- 8 インドネシア教科書、SENI BUDAYA, PENERBIT ERLANGGA, 2013 による。
- 9 ベトナム教科書, 「音楽、美術」, 教育訓練省発行, 2014.
- 10 カンボジア教科書, 「社会科」, 教育省発行, 2015.
- 11 タイ教科書, 「美術」, 教育省発行, 2015.

参考文献

- 「教育美術」 2015年1月号 特集アジアの美術教育
「教育美術」 2016年7月号 特集アジアの美術教育Ⅱ

図 1-8

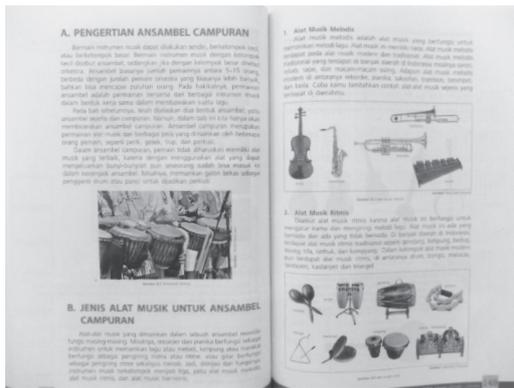


図 1 インドネシアの音楽教材

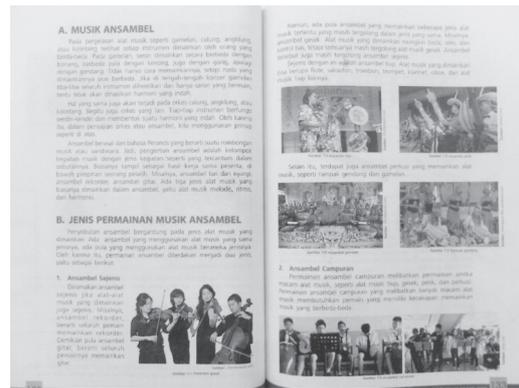


図 2 インドネシアの音楽教材

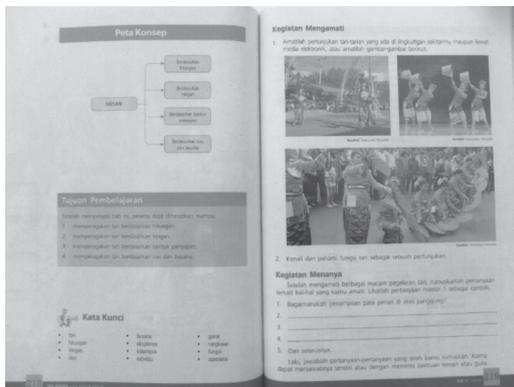


図 3 インドネシアの舞踊教材

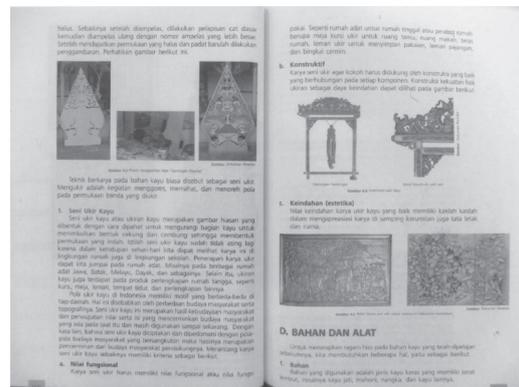


図 4 インドネシアの木彫

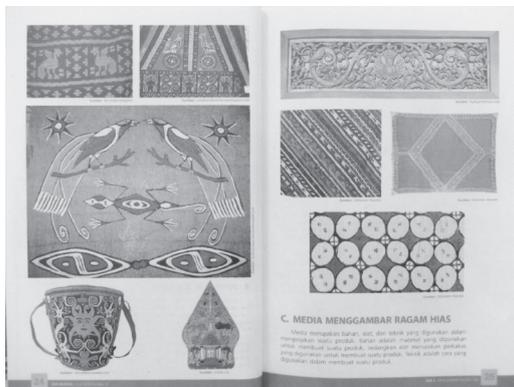


図 5 インドネシアの伝統工業

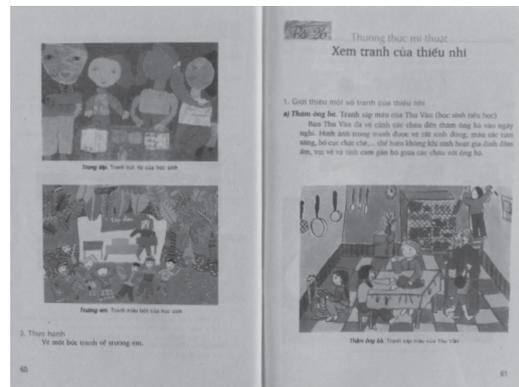


図 6 ベトナム小学校 4年絵画

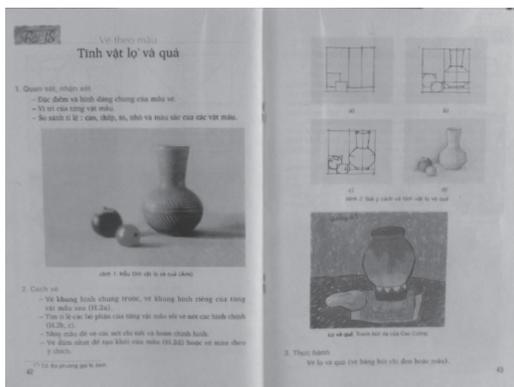


図 7 ベトナム小学校 4年静物画

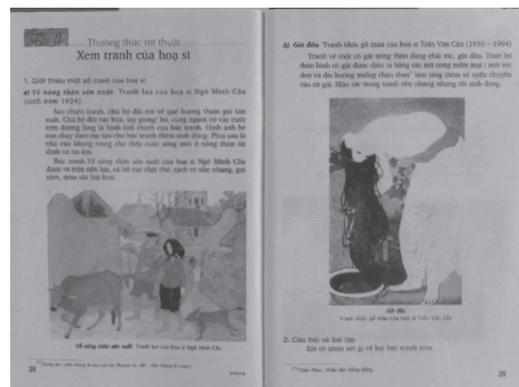


図 8 ベトナム小学校 4年ベトナム絵画

图 9-16

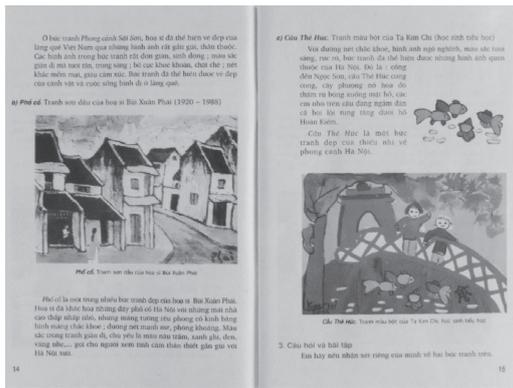


图 9 ベトナム小学校 4年風景画

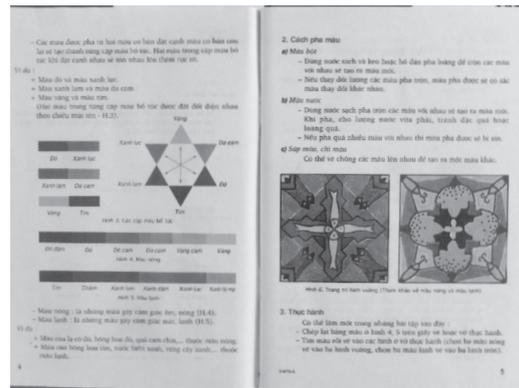


图 10 ベトナム小学校 4年色彩とパターン

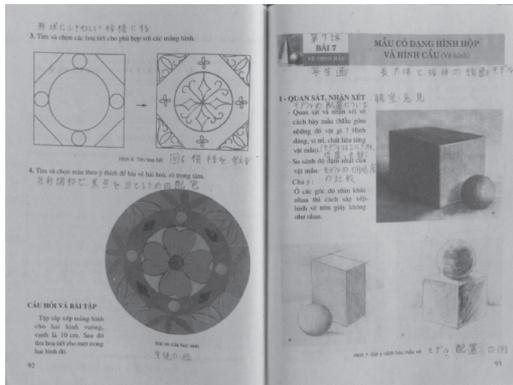


图 11 ベトナム中学校 1年パターンとデッサン

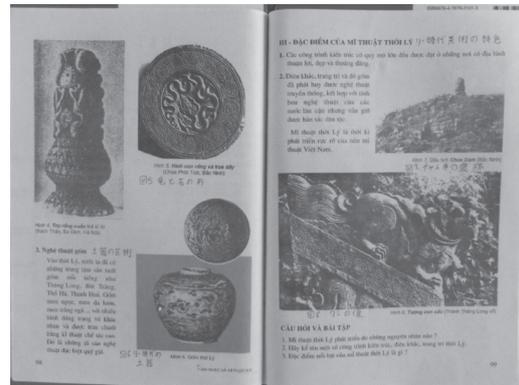


图 12 ベトナム中学校 1年美術史



图 13 ベトナム中学校 1年色彩教材

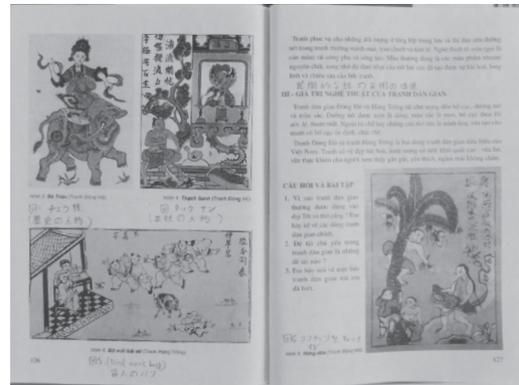


图 14 ベトナム中学校 1年絵画

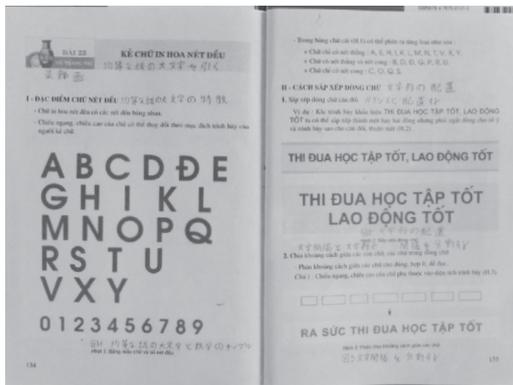


图 15 ベトナム中学校 1年レタリング

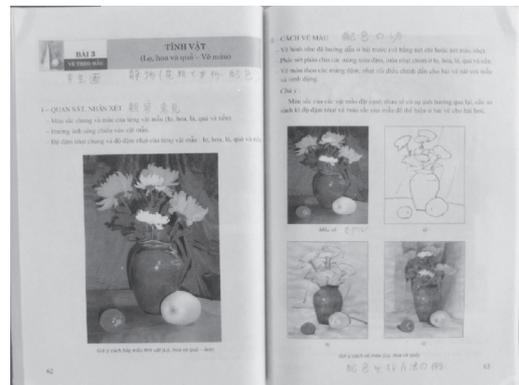


图 16 ベトナム中学校 4年静物画

图17-24

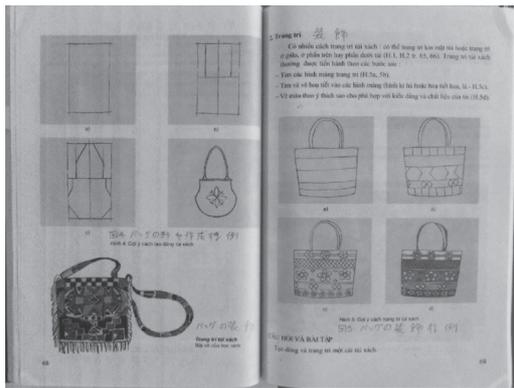


图17 ベトナム中学校4年装飾

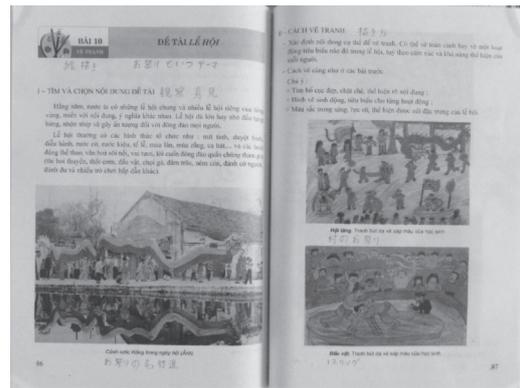


图18 ベトナム中学校1年絵画

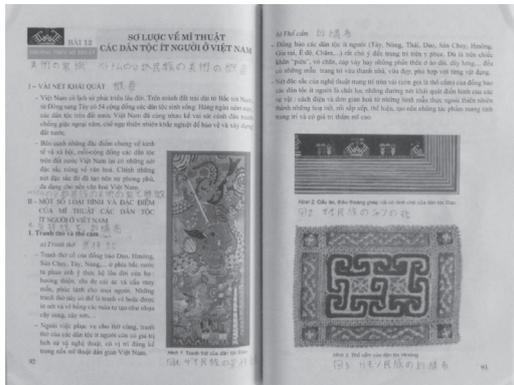


图19 ベトナム中学校4年民族美術

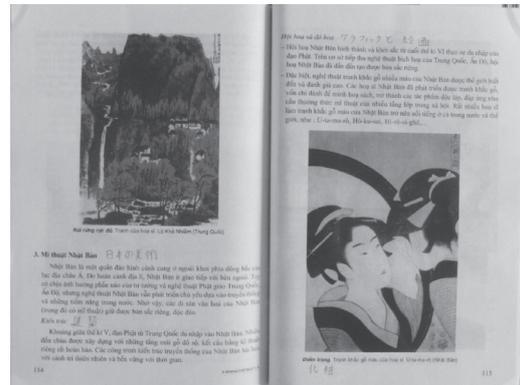


图20 ベトナム中学校4年美術史

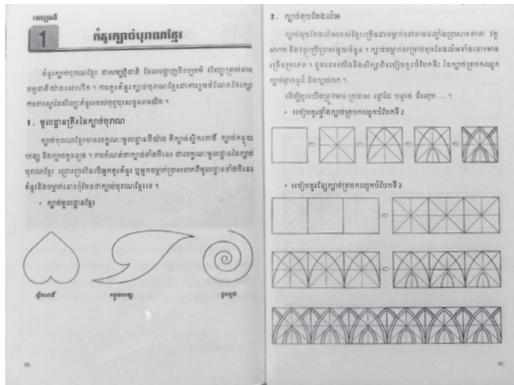


图21 カンボジア小学校5年パターン



图22 カンボジア小学校5年音楽

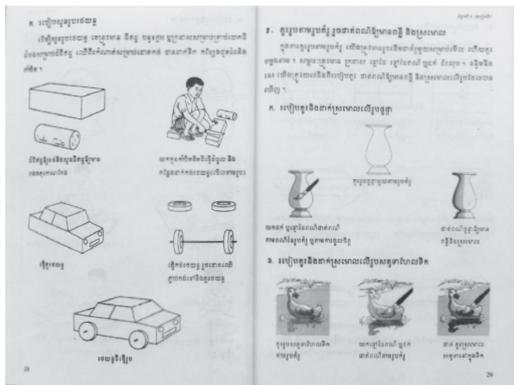


图23 カンボジア小学校6年工作・工艺

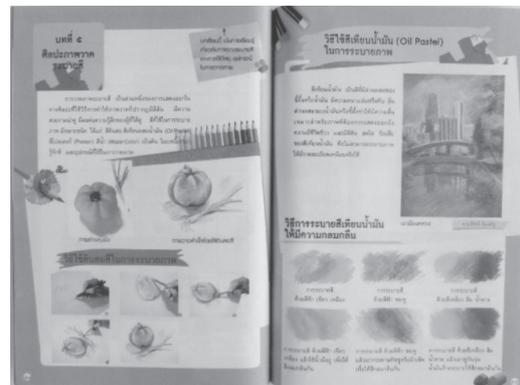


图24 タイ小学校4年絵画

图25—30

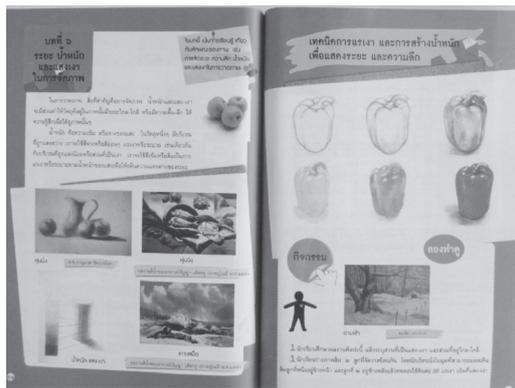


图25 タイ小学校4年絵画



图26 タイ小学校4年鑑賞

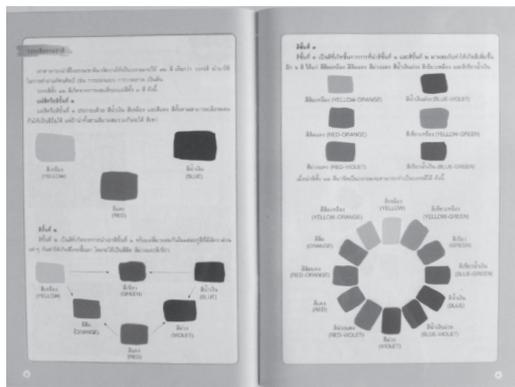


图27 タイ小学校6年色彩

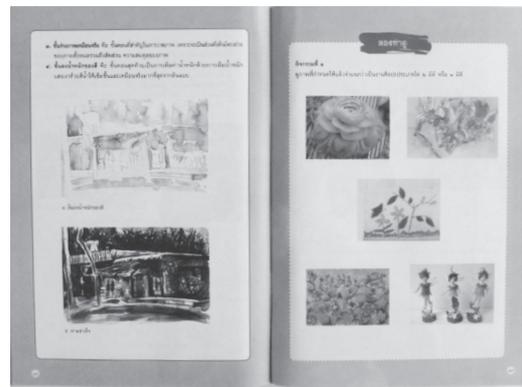


图28 タイ小学校6年絵画

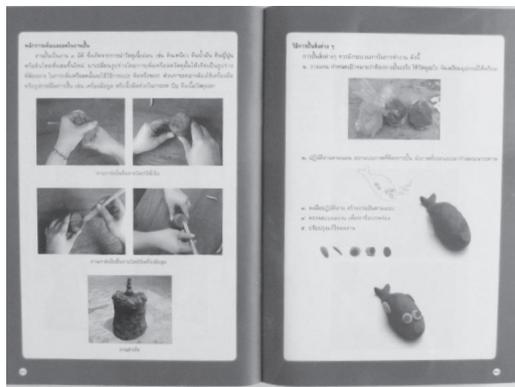


图29 タイ小学校6年工作

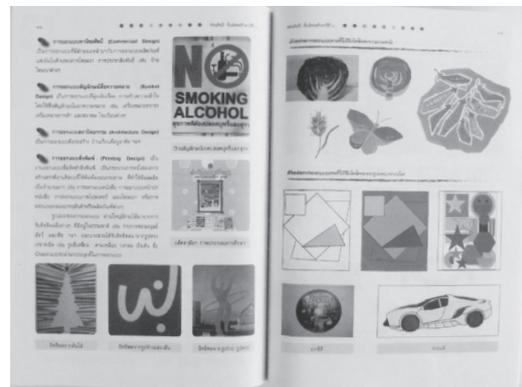


图30 タイ小学校6年デザイン構成